様々な理由で
ピアノを習いに
行けない

ピアノが
弾けるよう
になりたい

アーラ
みんなのピアノ
プロジェクト 参加者募集

「みんなのピアノプロジェクト」は、ピアノを弾けるようになりたい気持ちがありながら、経済面や家庭環境上、習うことが困難な子どもたちに対して、地域の方々の力をお借りしてピアノを練習する環境を提供するものです。アドバイザーとして地元のピアノ講師や音大生が立ち会います。

日程：2021年 5 月～2021年 9月
月・木・金曜日の指定日に実施
16:30 - 20:00 の間 30 分程
会場：可児市文化創造センター・演劇練習室

♪ 対象は概ね小学 1 年生から中学 3 年生までとなります。
（ 現在ピアノ教室に通っている方のご利用はご遠慮ください。）
♪ スケジュールは、申込者の中で毎月調整いたします。
（ 回数は月2回程度です。）

【申込方法】 インターネット上の申込みフォームにご記入ください。
申込みフォーム　https://www.kpac.or.jp/ala/topics/minnanopiano2021/
※インターネット上の申込みが困難な場合は、事務所にてお申込みください。
※応募者多数の場合、企画の趣旨に合う方を優先させていただく場合があります。

申込みフォーム

【申込・問合せ先】 可児市文化創造センター　アーラまち元気そうだん室　担当：松浦
〒509-0203　岐阜県可児市下恵土 3433-139
TEL : 0574-60-3311 / FAX : 0574-60-3312
MAIL : alamachigenki@gmail.com
締切：4/15（木）

主催 ：（公財）可児市文化芸術振興財団

本企画は新型コロナウィルス感染症防止対策を行い、実施します。詳細はアーラWEBサイトの感染症防止対策ガイドラインをご覧ください。

夢や希望は叶えることができる。
手助けしてくれる大人がみんなの周りにはたくさんいる。
そのことを知ってほしい。

アーラみんなのピアノプロジェクト

このピアノは、それにふさわしい「物語」を持っている。

２０１８年２月５日の冷え込んだ小雨の日に、ピアノは兵庫県西宮市からアーラにやってきました。発端は、『祈りのコンサート』などのコーディネーターである作曲家の佐野秀典さんからピアノを寄贈したい方がいると２０１７年の夏に連絡をもらったことからでした。音楽をこよなく愛するご夫婦で、奥様は数年前に亡くなられ、旦那様も病の床にあるとのこと。ピアノが好きだった奥様の暢子さんに、夫の憲昭さんがプレゼントしたヤマハ職人の手による特注ピアノだそうです。お子様はいらっしゃらず、幾度の困難も二人で助け合い、喜怒哀楽を共にした夫婦愛の結晶のピアノです。憲昭さんが亡くなられる直前、ご本人の希望で「夢・希望をつむぐピアノ」としてアーラに寄贈されることとなりました。その想いを受け継ぎこのプロジェクトが生まれました。

このプロジェクトのミッションは、諸々の事情で夢や希望を果たせない子ども達の心に、前を向いて立ち上がる勇気をもってもらうこと。

「将来は保育士さんになりたい。子ども達と楽しく歌えるようにピアノを習いたい。」

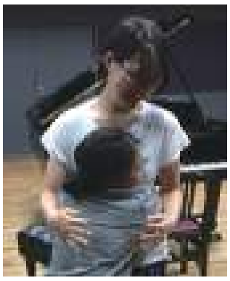
「母子家庭でピアノ教室に通わせるのが難しい。」

「ブラジル人の私は楽譜も読めないけど、子どもには音楽を習わせてあげたい。」

「集合住宅でピアノが置けず、経済的にも余裕がなく習わせることも難しい。」

申込書の応募動機には、子ども達の夢、そして親御さんの思いが書かれていました。プロジェクトに賛同くださった地元ピアノ教室の先生６名を迎え、初年度となる２０１８年10月、19名の子ども達を受け入れスタートしました。

▲先生に演奏をお願いして踊りだす、音楽って楽しい♪



▲大好きな先生と久し振りの再会

▲ト音記号、ヘ音記号のドレミの練習

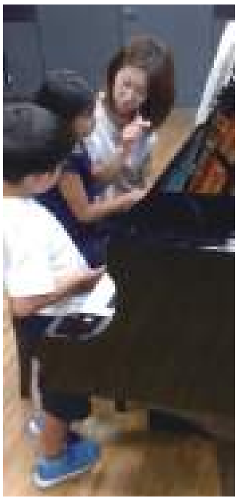
初日は心配そうに緊張した面持ちだった子ども達も、回数を重ねるうちに曲が弾けるようになり、うまくなりたい、新しい曲をやりたい、と向上心が芽生えています。型にはまらないレッスンなので、時には先生にピアノ演奏をねだったり、自分で作曲したり、歌ったり、踊ったりする子もいます。その時の活き活きとした瞳がプロジェクトの意義を物語っています。

２年目の２０１９年度は、音大生にも協力いただき、先生の数は17名に。実施回数を増やし、26名の子ども達を受け入れることができました。半数が外国にルーツのある子ども達で、これをきっかけにアーラの「多文化共生」や「私のあしながおじさん」など他プロジェクトも体験したり挑戦したりと、さらに人間関係と可能性が広がりました。

30分のレッスン終了後、子ども達は感じたことをノートに書いて帰宅します。小学２年生の女の子は、習ったばかりの漢字を一生懸命使いながら30分かけてノートを書きます。歌や踊りも大好きで「雪だるまつくーろー♪」とミュージカル調に教室に入ってくることも。ここが彼女にとってお気に入りのひとつになってくれていると感じます。

お母さんと一緒にいつも恥ずかしそうに教室に来る小学６年生の女の子。でもピアノの前に座ると堂々と弾いてくれます。先生方と会話をしながら休むことなく参加してくれました。

家にピアノはないけれど、おもちゃのピアノで毎回練習してきてくれる小学２年生の男の子。家では弾けていた曲が、先生の前ではうまくいかなくて思わず涙が。先生は、「泣くほど悔しい！という気持ちがある子は上手になっていくんだよ。」と優しく声掛けします。彼は、めきめきと音が聞こえるほどの上達ぶりを見せてくれました。

保護者の方からは、「子どもが毎回楽しみにしていて、ピアノがなくても自分で口ずさみながら練習しています。楽器に触れて音を出すことがとても楽しいと感じたようで、上手になりたいと欲も出てきて、いろんな刺激を受けたようです。」とお声をいただきました。

「みんなのピアノ」に時間が割けるときに交代でレッスンを請け負ってくださる先生方。なので毎回同じ先生に習えるとも限りません。その日のレッスン内容や子ども達の様子は情報を共有しながら進められます。手を貸してくださる皆さんのもと、寄贈名のとおり「夢・希望をつむぐピアノ」へとなっています。